

大内かわら版 NO.28

大内地区 地域の 教科書

観光案内を目的に作られたものでなく、大内に住みたいという方が大内での生活をイメージしやすいよう、ありのままの暮らしぶりを記したものであり、地域住民の皆さんにとっては、当たり前になっていた地域の魅力・価値を改めて見つめ直すきっかけになるものです。現在は若者層への聞き取り内容を反映した第2段階となる「地域の教科書」づくりを進めています。

「講行事」について

地域の教科書づくりを進めていく中で、皆さんにお話を伺っていると「講行事」を大切にされていることが伝わってきます。しかし、講行事は各家長が参加することが多く、同じ大内でも地区毎に風習が異なるため、若い世代の皆さんにとっては、どんな意味があって、どんなことをしているか、分からない方も多いようです。今号では、現在も行われているものを中心に「講行事」についてご紹介します。



下町契约会だより

「契約講（契约会）」

は住民の暮らしを守り、集落を維持・運営するための相互扶助の自治組織で、大切な交流の場にもなっています。昔は、屋根葺きや冠婚葬祭、信仰的講、経済的な助け合いなど、生活に欠かせないものでした。ほか「山の神講」「観音講」「念仏講」「御日需講」の風習が残る集落もあります。



佐野では「契约会」と「念仏講」を合同で行う

今はほとんど見られなくなりましたが「庚申講」（体の中にある虫が抜け出し天帝に罪悪を告げないよう眠らず過ごす）や、「二十三夜講」（繭の豊作や子宝・安産などを願う）、「羽山講」「出羽三山講」「巳待ち講」「金華山講」「蔵王講」「弁天講」なども行われていました。

水祝儀（スミツケ祝い）

新婚さんが仲間入りするために行われていた儀式。これを受けないと契約付き合いができないと言われていました。

正月の初出会時に、新婿・嫁を紹介し、講員などが筆や大根で「これで仲間入りが済んだ」という証に、顔に墨（スミ）をつけたそうです。

大内ではこんな儀式もあったそうです！



佐野の「水祝儀」の様子

山の神講

山の幸の豊作や山仕事の安全、災難除けなどを願う「男たちの講」と、子宝、安産を願う「女たちの講」があります。

男たちの講…昔は各家々（「宿」と呼び、輪番制だった）に集まりましたが、今は集会所で行います。山神様の掛け軸を飾り、お供え物をあげ、皆で会食した後、集落に祀られている山神にお参りします。

女たちの講…集会所（昔は「宿」）に集まり会食して楽しく過ごします。今は「観音講」も兼ねて行う集落もあるようです。



岩城に残る「山神様」の掛け軸

観音講

子や孫の子宝、安産などを願う神事で、各集落の女性達で行われています。



下町の「観音講」の掛け軸とお供え物

下町では、観音様の掛け軸をかけ、お供えをして拝み、御真言を33回唱えます。（33回数えるため下町はクルミを使う。数珠を使う集落もある）その後、お供えしたものを皆で分け合い会食します。集まりおしゃべりするのも楽しみの1つになっているそうです。神事後は観音様が祀られている「子安観音」で手を合わせます。お社には、お手玉のような「おまくら」があり、子や孫が赤ちゃんを授かった時に、「おまくら」を借りて（男の子は白、女の子は赤）、無事生まれたら1つ増やして返す風習が残っています。



下町の「子安観音」

※佐野郷土史「羽山の里 佐野の今昔」や、地域の皆さんのお話を参考にしました。

念仏講

極楽浄土を願い、念仏を唱えながら数珠を回す風習が残る集落もあります。今は親睦を目的に行うこともあります。



北伊手の「念仏講」

御日需講（おひまつこう）

田林契約会で今も続く講。お日様に感謝し、五穀豊穡や家内安全・健康・多幸を願います。神事後の「直来（なおりい）」も絆を深める大切な時間です。



田林の「御日需講」